

1月29日（金）～2月1日（月）

◆ホームステイ

1名以外は一般家庭でのホームステイとなった。研修生はホームステイ先の家族と共に、観光地巡りやショッピングなどをしながら過ごした。地域のジャズコンサートや居酒屋などに連れて行ってもらい、福島ライフを楽しんだようだった。

2月1日（月）

◆しおやぐら（そば打ち体験）

福島県庁で研修生6名と県費留学生1名をバスに乗せ出発。郡山インター前の駐車場で研修生2名を引き受けし、猪苗代町へ移動した。手打ちそばのお店『しおやぐら』を訪問しそば打ちを体験。昼食は自分で打ったお蕎麦を食べた。



ご主人のお手本を見ながら作業を進めます



お昼はお蕎麦

◆スキー体験

午後からはリステルスキーファンタジアにてスキーとスノーボードを体験した。普段、雪の降らない地域に住んでいる研修生たちは、降り積もる雪、スキー・スノーボード体験をとっても楽しみにしており、短時間にもかかわらずとても上手に滑れるようになった。

当初、スキーだけを予定していたが、研修生たちからスノーボードをやってみたいとの声が多く、急遽、スキーとスノーボードの選択制とした。事前に靴やウエアのサイズ等を確認し準備をしていたため、到着してすぐに着替えることができた。研修生たちはスキー5名・スノーボード4名に分かれ、職員がそれぞれ指導を行った。



初めてのスノーボード



雪に大満足

2月2日（火）

◆野口英世記念館

研修生の母国ともつながりのある野口英世博士の記念館を訪問。研修生たちは野口博士の遺品や資料などの展示物を見ながら、館内を見学した。

◆福島県農業総合センター

本県食品の安心・安全を守るため、放射性物質モニタリング検査を実施している県農業センターを訪問。担当者よりその取り組み状況について説明を受けた。

◆カーちゃんのカプロジェクト

原発事故で避難を余儀なくされた飯舘村の農家の「カーちゃん」達の取り組みについて担当者からお話をうかがい、理解を深めた。また、昼食には、カーちゃん達が出したお弁当を食べた。

2月3日（水）

◆南相馬市小高区視察

（一社）南相馬観光協会ボランティアガイドの方から、南相馬市小高区の現状について説明を受けた。研修生たちは JR 小高駅や津波被害を受けた海岸を視察し、復旧の進み具合について理解を深めた。



◆県との懇談会

今回の研修のとして県との懇談会を実施。「本研修に参加してみてもの感想と要望、今後の移住者事業に期待すること」と「風評払拭に向けた情報発信の取組」、「県人会の現状と課題」の3つの議題について懇談を行った。

## 1 本研修に参加してみたの感想と要望、今後の移住者事業に期待すること？

### ○池岡リア（ブラジル福島県人会）

- ・ 研修に来る前は厳しいと思ったけど、実際は厳しくなかった。良いスケジュールだった。
- ・ 印象に残ったことは、色々な場所、食べ物、全てである。



### ○福元 かおり（ブラジル福島県人会）

- ・ 復興の取組が学べたし、日本を知る機会として本当に良かった。
- ・ 印象に残ったことは、芸術系が好きなので、蒔絵である。

### ○知念 ルカス アグスティン（在亜福島県人会）

- ・ 飛行機が1日遅れたのが残念だったが、申し分ないほど満足している。
- ・ 印象に残ったことは、すべて楽しくて1つを選べない。スキー、蒔絵、復興の現場も含めすべて良かった。

### ○橋本 イヴァン アリエル（在亜福島県人会）

- ・ 姉も2010年に参加したが、その時は通訳がいなくて大変だったと聞いていた。今回は通訳もいたので良かった。
- ・ 要望はない。スタッフは皆優しく、気遣ってもらい、素晴らしい研修になっている。
- ・ 印象に残ったことは、産総研の視察。最先端の日本の技術に興味がある。

### ○サトウ タカハシ ホセ カルロス（ペルー福島県人会）

- ・ 福島のことを学んで感動している。特に復興については素晴らしい。
- ・ 心理学の学生として、いろいろな話を聞けることはとても有意義である。
- ・ 印象に残ったことは、かーちゃんのカプロジェクトである。飯舘村の人の思いが伝わった。

### ○ハネダ ヒガ ペギ（ペルー福島県人会）

- ・ 視察先はどれも素晴らしい。充実した時間を過ごせて、とてもラッキーである。
- ・ 印象に残ったことは、蒔絵である。

### ○二階堂 秀宜（ポリビア福島県人会）

- ・ 日本の事がずっと知りたかった。自分がどこから来たのかよくわかった。
- ・ このまま福島に居たいと思ってしまうくらいである。

- ・ 私は日本食レストランのシェフなので、印象に残ったことは食べる時。特に喜多方ラーメンが印象的である。

○廣光 明美（ドミニカ福島県人会）

- ・ 来る前に食の安全性が心配だったが、視察で問題がないことがわかり安心した。
- ・ 印象に残ったことは、そば打ちとホームステイの時に行ったこけしの絵付けである。こけしが好きでたくさん買った。

○フェリシオ 栗田 ヘナン（ブラジル） [県費留学生]

- ・ 研修の企画に携わったスタッフに感謝したい。
- ・ 研修は有意義で大切な経験になった。なぜなら、知らない国の文化の違い、振る舞い、考え方などを知る機会として素晴らしい内容であるためである。
- ・ また、日系人として、福島の教育や、祖父母のことを学べ、自分のルーツを知る機会としても素晴らしかった。

## 2 本研修のほか、北米移住者子弟研修受入事業や県費留学生受入事業などがあるが、県の移住者事業についてどう思うか？

○サトウ タカハシ ホセ カルロス（ペルー福島県人会）

- ・ 研修に参加して、福島の人が南米へ移住した方への意識が強いということを感じた。
- ・ 日本語ができなくても、福島とのつながりを強く感じた。

○二階堂 秀宜（ボリビア福島県人会）

- ・ 夏に同じように北米の県人会を対象にした研修があると聞いた。できればもっと他の県人会の人と話してみたい。近くのブラジルやアルゼンチンなどは何となくわかるが、ドミニカのことには知らなかった。各国の日系人がどのように生きているのか興味があるし、北米と一緒にいければもっと楽しくなりそうである。

## 3 風評払拭に向けた情報発信の観点から、研修成果をどう活かしていくか？

○橋本 イヴァン アリエル（在亜福島県人会）

- ・ 私が住んでいるアルゼンチンのコルドバでは福島の現状は伝わっていない。
- ・ それでも私は福島の現状に詳しい方なので、友達や家族に説明していたが、この研修ですらに詳しくなったので、これからはコルドバだけでなく、いろいろな所で伝えていきたい。

○廣光 明美（ドミニカ福島県人会）

- ・ ドミニカでは、県人会の1つの取組として、研修生は必ず帰国後に報告会を行い、発表することになっている。

- また、日本人学校でも活動しているので、日本に興味がある現地の学校、福島に興味がある人を中心に発表をしたり、パンフレットなどで伝えていきたい。

#### ○池岡 リア（ブラジル福島県人会）

- 私は、ブラジルで11月のセミナーに参加し福島の現状を知った。けれどもそれを友達に伝えても信じてもらえないので、自分の目を見たことを、フェイスブックなどを活用し、ポルトガル語で伝えたい。

### 4 県人会の課題などを感じることはあるか？

#### ○二階堂 秀宜（ポリビア福島県人会）

- ポリビアでは福島県人会の人数は少ない。17人、5家族しかいない。そのうち3家族はレストラン経営で忙しく時間がない。何かをやるにしても時間が合わない。
- 人数が少ないので、県人会というよりは、日本人会として集まっているのが現状である。
- 日本語も課題である。私は家の教育方針で、父親から家の中では日本語と決められていたのでわかるが、ほかの人はわからない。

#### ○池岡 リア（ブラジル福島県人会）

- やはり日本語の問題がある。特に、3世～4世は日本語ができる人が少なくなっている。私は日本語の先生の娘だからわかる。

#### ○橋本 イヴァン アリエル（在亜福島県人会）

- 県会で多くの人が活躍しているが年配の方が多く、若い人はあまり興味がない。
- 若い人もいずれは県会を担うだろうが、どうやって自分のルーツに興味を持たせるかは大事な問題である。
- 私はブエノスアイレスには住んでいないので、他の課題は詳しく知らないが、若い世代に対する取組みとしては、このような研修への参加がきっかけになると思う。
- 若い世代に伝えたいことは、大事なことは日本語を理解することよりも、福島や日本に興味を持つことだと言いたい。



#### ○サトウ タカハシ ホセ カルロス（ペルー福島県人会）

- アルゼンチンと同じように、県会の人が多いが、主に活躍しているのは年配の人たちである。
- ジェネレーションギャップみたいなものがあり、それは、90年代に政治的な問題

で、ペルーの日系人の多くが仕事を求めて日本に移住したことである。

- これによりペルーの日系人に若い人が少なくなり、福島県人会の場合、10代～30代は私と兄を含め4人くらいしかいなく、問題になっている。

○廣光 明美（ドミニカふくしま県人会）

- ボリビアと同じように県人会に人が少ない。
- 3世が大人になって4世が生まれているが、日本語がわかる人はいない。
- 私は2世だが、祖父母や親は日本語を使わなかった。私は日本人学校で努力したが、身につく人は少ない。1世も亡くなっているので問題になっている。